

展覧会 press release

旅する少女歌劇団 日本少女歌劇座展
—大和郡山発 元祖ローカルアイドルの群像—



絵はがき（華村君子、吉野恵美子、雲野幸子）／大和郡山市立図書館蔵

会 期：2019年8月24日（土）～9月1日（日）※会期中無休

開場時間：10：00～17：00

会 場：DMG MORI やまと郡山城ホール展示室（奈良県大和郡山市北郡山町 211-3）

入 場 料：無料

主 催：大和郡山市立図書館

共 催：京都文教大学

後 援：奈良県立図書館情報館、奈良新聞社、奈良テレビ放送(株)、奈良女子大学大和・紀伊半島
学研究所なら学研究センター

協 力：宮崎日日新聞社、(公財) 宮崎文化振興協会 みやざき歴史文化館、早稲田大学坪内博
士記念演劇博物館、DMG MORI やまと郡山城ホール

監 修：鵜飼正樹（京都文教大学総合社会学部教授）

展覧会概要

かつて、大和郡山に本社を置き、日本全国を巡業した少女歌劇団がありました。

「ニッショウ」「NSK」の愛称で親しまれた「日本少女歌劇座」です。

日本少女歌劇座は、大正 10（1921）年ごろ、大阪府下の日下温泉（現在の近鉄石切駅付近）で誕生しました。その後、同温泉の経営不振により、大和郡山（当時は生駒郡郡山町）の島興行社が経営、全国を巡業するようになりました。巡業の足跡は九州から北海道にまで及び、戦前・戦中は、毎年のように、台湾、朝鮮、満洲でも公演していました。昭和 11（1936）年以後は、宮崎市にも拠点を置き、お正月の宮崎県内巡業公演が恒例になります。戦後も、昭和 21（1946）年 1 月の宮崎県公会堂を皮切りに、宮崎県内を巡演し、敗戦に打ちひしがれた人びとを勇気づけました。数年後には、九州、東北、北陸を中心に全国巡業を再開、昭和 30 年代初めまで、35 年以上にわたって、「少女歌劇」という夢の舞台を地方に届け続けました。

日本少女歌劇座は、拠点となる劇場で常打ち公演をするのではなく、計画的に各地を巡業するユニークな公演スタイルをとっていました。ファンが遠方の劇場まで「見に行く」のではなく、毎年 1 回、スターが地元へ「会いに来てくれた」のです。そのために、絵はがき、チラシ、ポスター、新聞などのメディアを駆使した広報、毎年ほぼ同時期に同じ地域で公演する「年に一度の訪れ」、劇団員の出身地での「郷土訪問」公演など、現在のアイドル売り出し戦略にも通じる手法が用いられました。

大和郡山発の「元祖ローカルアイドル」ともいえる日本少女歌劇座ですが、これまでその活動が広く知られることはありませんでした。地元である大和郡山では、そもそも公演すること自体が少なかったため、その存在すら忘れられつつあります。

本展では、当時の絵はがきやチラシなどの資料約 200 点を展示し、新聞記事、関係者の証言などとともに、日本少女歌劇座の全貌をご紹介します。



絵はがき（大正 15 年年賀状・熊本大和座）個人蔵

展覧会構成

1. 日本少女歌劇誕生（大正後期）

大正 10（1921）年 8 月、大軌（現在の近鉄）生駒トンネルの大阪側に、日下温泉が開業しました。この日下温泉の専属劇団として誕生したのが、「日本少女歌劇座」です。温泉で少女歌劇を公演するのは、宝塚少女歌劇を手本にしたと考えられます。

大正後半から昭和初めにかけて、全国各地に多数の少女歌劇団が設立されました。日本少女歌劇座も、当初はこうした少女歌劇ブームの中から生まれた劇団のひとつでした。



日下温泉絵はがき/個人蔵



公演チラシ（昭和 3 年）大和座・熊本/個人蔵

2. 山路妙子の時代（昭和一ケタ代）

設立後まもなく、日本少女歌劇座は、全国を巡演する旅に出ます。運営にかかわっていたのが、島幹雄です。島は「日本少女歌劇」の名称を商標登録し、日下温泉から離れて、本社（島興行社）を奈良県生駒郡郡山町（現・大和郡山市）に置き、年間を通じて全国を巡演する少女歌劇団へと仕立て上げました。

日本少女歌劇座の巡演コースは、当時ほぼ全国を網羅して整備された鉄道網と重なり、移動には貸切の客車を利用していたようです。地元紙とタイアップして、割引券を配布するとともに、公演記事を書いてもらうメディアイベント戦略、毎年、同時期に同じ地域を巡演する「年に一度の訪れ」戦略など、周到な計画のもとに地方を巡演し、人気をえていました。

初期から昭和 10（1935）年ごろまで、一座のトップスターに君臨したのが、富山県出身の男役・山路妙子です。



松阪公演（昭和 9 年）/大和郡山市立図書館蔵 第一回満州公演チラシ（昭和 4 年）/個人蔵



浅草公園劇場公演チラシ
（昭和 9 年/個人蔵）

3. 雲野幸子、華村君子、吉野恵美子の時代（昭和 10 年代）

昭和 10 年代に日本少女歌劇座のスターとなったのが、雲野幸子（秋田県出身、男役）、華村君子（北海道出身、男役）、吉野恵美子（山形県出身、娘役）のトリオです。戦中も、この 3 トップ体制は続き、トリオやペアで撮影されたプロマイドがたくさん残っています。

宮崎市末広町にあった劇場を買収し、昭和 11（1936）年に、孔雀劇場として新装開場。以後、お正月は宮崎県内を巡演するというコースが定着しました。この時期の演目には、軍国調のものが目につきます。また毎年のように、台湾、朝鮮、満洲の公演にも出かけています。朝鮮では、寝泊まりできる専用列車が仕立てられ、各地を巡演しました。



孔雀劇場新装披露記念特別興行「春のおどり」

（昭和 11 年）／大和郡山市立図書館蔵



朝鮮公演専用列車内（昭和 17 年頃）／大和郡山市立図書館蔵



プログラム（昭和 18 年）個人蔵

4. 戦後のスター群像（昭和 20 年代）

昭和 20（1945）年 8 月 12 日の宮崎空襲によって孔雀劇場は焼失しました。しかし、日本少女歌劇座は、昭和 21 年 1 月から宮崎県内各地を巡演。戦後復興に重要な役割を果たしました。

戦後のスターは百花繚乱。根津美子、五十鈴礼子、住友みや子、山路すみれ、若柳喜代子、香川潤子、小谷百合、園敏子、九重かほる、大空みつる、紅照代、佐賀あきらといったスターが活躍しました。宮崎県出身者が多くを占めたのが、戦後の特色です。

解散時期は不明ですが、日本少女歌劇座の公演は、昭和 30 年代初めまで確認できます。



踊る孫悟空（昭和 27 年）／大和郡山市立図書館蔵



日本少女歌劇座機関紙（昭和 27 年）／個人蔵

5. 島幹雄 4つの名前を持つ男

日本少女歌劇座を経営していた島幹雄(1896-1974)は、謎の多い人物です。頭山満、川村竹治、永井柳太郎、佐藤紅緑、石井漠など、戦前から政治、文化の大物と交友関係があったようです。

島幹雄は本名ではなく、出生時の本名は富永朝太郎。幼少時に養子に行き、木澤朝太郎となっています。戦後はふたたび富永姓に戻りました。また、「大和錦魚」のペンネームで、少女歌劇の台本も書いています。昭和 24 (1949) 年に起きた松川事件とのかかわりが噂され、松本清張『けものみち』の弁護士・秦野重武のモデルとも目される人物です。



島幹雄／個人蔵

【関連イベント】

講演会：「日本少女歌劇座の35年 元祖ローカルアイドルの群像」

講師：鵜飼正樹（京都文教大学総合社会学部教授）

日時：8月31日（土） 14時～17時

場所：DMG MORI やまと郡山城ホール展示室

参加費：無料

【問い合わせ】

＜本リリース発行者／展覧会概要＞

大和郡山市立図書館／担当：青木美智子

〒639-1160 奈良県大和郡山市北郡山町 211-3

電話：0743-55-6600（火曜休館）

＜日本少女歌劇座について＞

鵜飼正樹（京都文教大学総合社会学部教授）

m-ukai@po.kbu.ac.jp

【広報用画像データ申込】

- ・プレスリリースに掲載されている画像は広報用画像として提供可能です。
※但し、島幹雄肖像画像については不可。
- ・広報用画像を希望される方は、上記、業務局事業部担当までお申込みください。
- ・広報用画像のご使用は、本イベントをご紹介いただける場合に限りです。
- ・画像の部分使用ならびに文字や他のイメージを重ねることはご容赦ください。
- ・画像のキャプションは正しくご記載ください。
- ・掲載紙・誌、DVD等を、大和郡山市立図書館青木まで2部ご送付いただけますと幸いです。
- ・Webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。
- ・Webサイトに掲載する場合は、コピーガードを施してください。